

平成 28 年度の主な事業報告

社会福祉法人ふじの郷

「法人全体」

- 1、将来構想としての短期・中期計画の具体的計画策定に取り組む年であったが、前提となる土地に関し、購入の決定はしたが資金調達面で進展が図れなかった。
- 2、新事業として開設した多機能型事業所「ふじあざみ」は、大きなトラブルもなく生活介護利用者が 9 名から 17 名に増え、また就労移行も 1 名の利用者が加わり 2 年目を終えた。
- 3、重点施策
 - ① 相談支援従事者及びサービス管理者資格の取得推進及び外部研修の積極的参加、また強度行動障害者従事者基礎研修及び実践研修の受講を通じ質の高い福祉サービスの提供を図るよう努めた。
 - ② 作業の（受注製品）効率化を図るとともに自主製品の開発に力を入れ、分配金支給を目指し、利用者に安定した作業提供ができるよう努めた。
 - ③ 地域の行事等への参加や社会資源を積極的に活用し、法人事業及び利用者に対する理解と協力を仰ぐとともに地域住民との関わりを深く根付くよう図った。
 - ④ 災害対策（風水害）におけるマニュアルを作成した。

「さつき学園」

- 1、福祉サービス第三者評価制度の受審を検討したが、職員配置状況がタイトのなか利用者支援に追われ進められなかった。
- 2、インフルエンザの集団感染が発生し、利用者 25 名、職員 13 名が発症した。県及び市への報告を行った。
- 3、重点施策
より良いサービスの提供と利用者が社会の一員として地域で暮らす為の環境整備に努めた。
 - ① 生活・余暇支援の充実
 - ・利用者個々の生活面の課題を含めた個別プログラムを作成し、精神面の安定、健康面での体力維持を図った。
 - ・利用者のニーズに応じた取り組みを図り、外出等による余暇支援を体験し、自己表現や感性の豊かさを養うよう図った。
 - ② 社会参加への積極的な働きかけ
 - ・公共施設や公共交通機関等を利用する機会を増やし施設外での活動や体験を図った。
 - ・地域の新設公園内にさつき学園用の花壇スペースを借受け、花の管理、季節ごとの植替え等を地域の方と協力して行った。
 - ③ 生産・創作活動の充実
 - ・利用者の状況に応じて創作活動や生産活動を主体的に行うことができるように努めた。
 - ・クラブ活動として音楽・美術・スポーツ等を利用者に応じて実施した。また生産活動では、園芸活動（花、野菜の栽培・販売）、リサイクル活動（アルミ缶、段ボール回収）、工芸活動（機織り、ビーズ作品の制作・販売）、環境整備作業を行った。

④ 意識改革

- ・ 家族会・個別面談・職員研修等を通して保護者等との情報共有化、連携を取り、家族と施設が両輪となり利用者自立への意識高揚を目指した。
- ・ 職員は、環境の整備とともに一貫した支援技術を養い、3Sを心掛けた業務の効率化に努めた。
- ・ 職員育成のため内部研修、外部研修、資格研修に積極的に参加し、自己研鑽を諮った。

4、整備計画

- ① 防犯対策（監視カメラ、センサー、警備システム）、衣類用保管倉庫、浴室給湯器
- ② 居室用空調機集中リモコン交換、受水槽外板塗装修繕、

5、その他

① 支援

- ・ 計画相談に基づく個別支援計画作成・変更時等にアセスメントが利用者を主体とし、保護者の意見をも取り入れた計画に反映を図った。
- ・ 個別支援計画を作成し、ケース記録・まとめの充実、6か月ごとのモニタリング、随時ケース会議、ケースカンファレンス等の充実を図った。
- ・ 歯科検診：年1回、内科健診：年1回、健康診断：年2回実施
- ・ 防災訓練 毎月1回

② 会議

- ・ 職員会議・主任会・権利擁護委員会 毎月1回
- ・ 内部研修・苦情解決委員会・各棟会議・作業会議 年2回
- ・ 棟別会議・各作業班会議・ケース会議 随時

③ 広報活動等

- ・ 広報誌発行（年2回）、「さつき通信」発行（毎月）
- ・ 見学者、実習生の受け入れ
- ・ 支援学校生就職作業実習の場の提供、ボランティア活動の受け入れ
- ・ 保護者の農作業ボランティア

「ふじあざみ」

- 1、生活介護利用者の増にも対応し、大きなトラブルもなく2年目を終えられた。
 - 2、就労移行は、1名が加わったが、利用者の増員ができなかった。その中で内容の充実を図るとともに施設外実習にこぎつけることができた。
- #### 3、重点施策

より質の高いサービスの提供と利用者が社会の一員として地域で暮らし、働く自閉症者を目指して環境の整備に努めた。

① 生活・余暇支援・創作活動の充実

- ・ 受託事業を通して作業の取組に努め、また就労・生活支援センターや関係機関と連携し企業見学、企業実習を兼ね就労への意識改革と一般就労へ繋げるよう図っている。
- ・ 利用者個々の生活面の課題を含めた個別プログラムを作成し、精神面の安定、健康面での体力維持を心掛け配慮に努めた。また身辺自立支援に関し、日中活動中でも継続的に

実施した。

- ・利用者のニーズに応じた取り組みを図り、外部講師、ボランティア等による余暇支援を体験し、自己表現や感性の豊かさを養うよう努めた。

② 生産活動の充実

- ・利用者個々に応じた作業、創作活動を利用者が主体的に行えるよう支援に努めた。
- ・作業評価表をもとに各作業収入、作業に応じた工賃設定をし、分配金を行った。

③ 社会参加への積極的な働きかけ

- ・社会資源（公共交通、公共施設）の利用を増やし、施設外での活動や体験を図った。

④ 送迎への積極的な取り組み

- ・送迎を行うことで利用日数の安定化を図った。

⑤ 日中一時支援事業の充実

- ・車両購入により送迎への積極的な配慮に取り組んだ。

3、その他

① 支援

- ・計画相談に基づく個別支援計画作成・変更時等にアセスメントが利用者を主体とし、保護者の意見をも取り入れた計画に反映を図った。
- ・個別支援計画の作成し、ケース記録・まとめの充実、3 か月ごとのモニタリング、随時ケース会議、ケースカンファレンス等の充実に努めた。
- ・内科健診：年 6 回
- ・防災訓練：毎月 1 回
- ・5 日以上欠席者への自宅訪問、面談の実施、関係機関との調整

② 会議

- ・職員会議 毎月 2 回、ケース検討：毎月 1 回、内部研修：年 2 回